



知の大海へ！  
未来へ！  
キーワードは  
「創造」。

●21世紀をきり拓く力を育てるリベラルアーツ教育  
～実践的な教養教育～

# 国際総合科学部

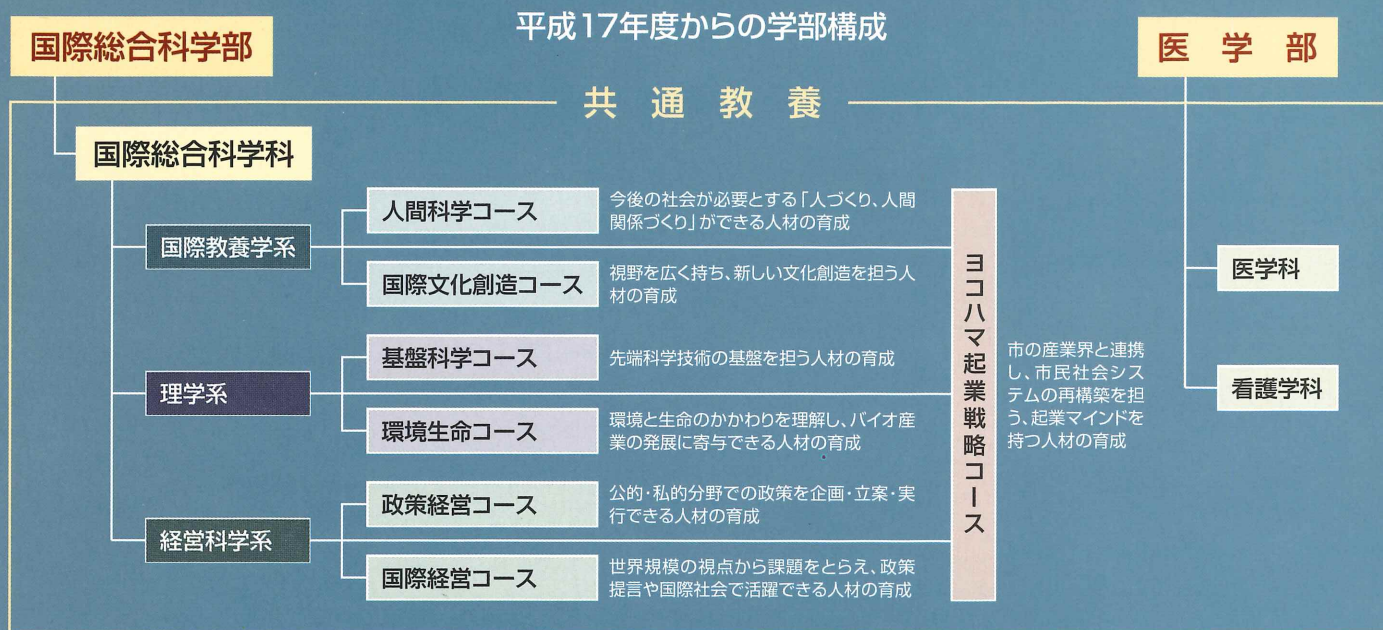
## 横浜市立大学

2005  
Yokohama City University



# 「学びたい」気持ちに応える学生のための大学へ

横浜市立大学は平成17年度から教育システムや運営形態が大きく変わります。  
その一つとして、現在の3学部（商・国際文化・理）を統合して「国際総合科学部」を設けます。



※現在、文部科学省へ申請・届出中のため、各学部などの名称はすべて仮称です。

## 21世紀をきり拓く人材育成に向けて

### 教育システムの改革

■大学の目標を「発展する国際都市・横浜とともに歩み、教育に重点を置き、幅広い教養と高い専門的能力の育成を目指す実践的な国際教養大学」とします。

■創造力と積極的な問題発見・解決能力を持った人材を育成するための「21世紀のリベラルアーツ教育（実践的な教養教育）」を教育方針とします。

- 学部・学科のもとに学系・コースを設けます。
- 医学部には、医師養成課程の「医学科」のほか、看護短期大学部を4年制化した「看護学科」を設けます。
- 入試区分の制約を受けずに、一定の条件のもとにコース選択・進級を可能とし、複数コースの履修も可能とします。
- 学部1年次において、全学生に独自のリベラルアーツ教育を行い、2年次への進級時に一定数は他の学部・学系に進むことを可能とします。
- カリキュラムは、専門家や実務家による実践的要素を取り入れ、国際都市横浜の利点を生かして、市内の国際機関や企業などとの連携による特色ある教育内容を展開します。
- 学期ごとに単位認定を行う「セメスター制」を導入し、効果的・効率的に受講できるようにします。
- 英語教育を重視し、TOEFL500点を2年次から3年次への進級要件に設定します。

### 運営形態の改革

- 運営形態を「地方独立行政法人」とし、自主・自立的な運営を行います。
- 教育研究組織と経営組織の役割を分離し、責任体制を明確にします。
- 教員に任期制・年棒制を導入し、教育・研究の活性化を図ります。





### 時代の変化を 先取りするために

教養教育と専門教育の実践的結合を図り、新たな知識や専門的能力を生涯にわたり獲得し続けられるように、基礎学力と実践的応用能力を身につけることが重要です。そのために、狭い専門分野にとらわれず、領域横断的で実践的な教養教育=21世紀のリベラルアーツ教育を行います。

## 21世紀のリベラルアーツ教育(実践的な教養教育)とは

### 現代社会が求める人材とは

現代社会においては「創造力」、「積極的な問題発見・解決能力」、「広い視野と豊かな人間性・倫理観」をもった人材の育成が求められています。ますます複雑化、多様化する社会では、自らの目標をしっかりと見すえ、思考し、積極的に行動する人材が必要です。

### 広い視野、大局的な判断力に専門性も

これまでの狭い専門領域の学問だけを修得するだけでは、これらの人材育成はできません。幅広い教養と知識を修得し、視野の広さや大局的な判断力を養いながら、専門性を高めていくことが必要です。

### 実社会と接点をもった実践的視点

教育の方法も単に理論だけでなく、実社会と接点をもった実践的視点から行うことが必要です。そのために、社会の第一線で活躍する実務家・専門家を学内に招くことや、インターンシップやフィールドワークなど、学生が学外の世界を体験する機会を提供します。

### 基礎学力と、語学などの実践的能力を

国際総合科学部では、実社会の課題に積極的に取り組んでいける人材の育成を目指し、そのための基礎学力、実践的能力(語学力、文章作成・発表・討論技法など)を修得する教育を21世紀のリベラルアーツ教育(実践的な教養教育)として4年間を通じて行います。

## コース概要

### 入学後、学習しながら選ぶことも可能

- 国際総合科学部では3つの「学系」の下、各学系に2コースを置き、さらに学系の融合領域として1コースを設け、**合計7コース**としました。
- コースは**2年次進級の際の選択制**です。受験する段階で、将来の進路が明確に定まっていなくても、入学後に学習しながら自分の方向性を見つけることができます。

## 各コースへの進級について

### 他学系・コースの科目も受けられる

- 入試では、2年次の各コースへの進級を想定した区分を設けます。
- 1年次は全学生が「**共通教養**」を履修します。1年次でコースが指定する科目の履修と成績の条件を満たせば、2年次進級の際、**受験時の募集区分に制約されず自分でコースを選択**できます。また、一定条件のもとで医学部など他の学部・学科に一定数が進むことを可能とします。
- 他学系・コースの授業科目を積極的に履修できるよう、主コース・副コースのように学生が**複数のコースを履修**できるようにします。
- 学生個人の将来像を視野に入れて、コースでどのような科目を学習すればよいのか(カリキュラムデザイン)をイメージしやすいように、コース毎に「**履修基本モデル**」(クラスター)を作成しました。

- ★自分が学ぶべき学問は何かと考え、時間をかけて調べるケースは少ないのではないのでしょうか。本学の国際総合科学部では、人文科学、社会科学、自然科学のどの分野にも進んでいけます。こういった**自由さを活かせる学生**を望んでいます。
- ★学びたいというエネルギーや意欲はあるけれど、何を学んでよいかわからないといった学生にもおすすめします。本学でいろいろな学問にふれながら、自分の将来を見つめていくことができます。





# ●幅広い分野から履修できる柔軟なシステム 国際総合科学部 カリキュラム

●国際総合科学部のカリキュラムは、

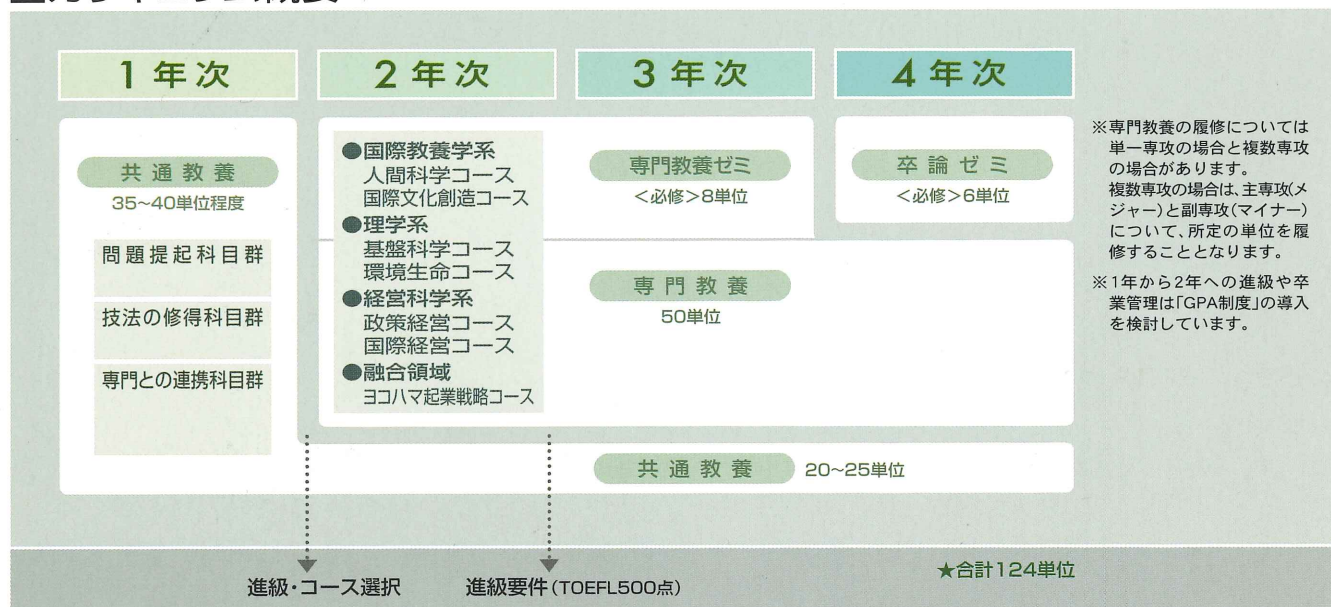
共通教養

専門教養

ゼミ+卒論

で、構成します。

## ■カリキュラム概要



※専門教養の履修については単一専攻の場合と複数専攻の場合があります。複数専攻の場合は、主専攻(メジャー)と副専攻(マイナー)について、所定の単位を履修することとなります。

※1年から2年への進級や卒業管理は「GPA制度」の導入を検討しています。

- GPA制度 (Grade Point Average) 米欧の大学で採用している学生成績評価制度。成績のポイント数の平均により、進級・卒業の管理をする制度。
- セメスター制 1年を2つのセメスター(学期)に分け、原則として学期毎に単位の認定を行います。また、セメスターごとに、週1回2単位科目と週2回4単位の科目を併存させるなど、柔軟な授業単位とします。
- ゼミ セミナール。5~20人程度の少人数で、担当教員を囲んで、テーマを掘り下げながら学習していく授業形態のこと。学生主体で研究発表とディスカッションを中心に進められます。

## ●学生自らが問題を発見し、解決する姿勢を学ぶ

### 共通教養

●横浜市立大学が目指す教養教育は、個々の学生が自分の固有のテーマを発見し、「自己の発見」、「自己の確立」につながる能動的知の獲得を目的とします。

共通教養は、大きく分けて3つの科目群から構成されています。



1	問題提起	現実の課題を既存の学問体系にとらわれることなく多面的に扱い、学生が問題意識のアンテナをいっぱい広げられるようになることを目指します。 ●総合講義A・B、実践科目
2	技法の修得	自分の考えを現実的なものとするために必要な技法を身につけます。 ●教養ゼミA・B、語学、情報コミュニケーション科目
3	専門との連携	共通教養と専門教養を有機的に連携させ、一つの専門にとらわれることのない知性を育て、学生自身の問題意識を成長させます。 ●基礎科学講義A・B、共通広域科目

- 以上の科目群はどれも「生き抜くための・とらわれることのない・知恵と技法」の科目です。これらが有機的に連動し、専門科目ともしっかり手を携えることによって、自分にとっての問題を考える「学生」が誕生します。
- 共通教養科目は「学生」誕生のための支援科目です。



## ■ 共通教養《全体の構成》

項 目		内 容
1 年 次	総合講義A	現代的課題を考えさせるための科目で、1年次の学生が関心を抱きやすいテーマを4つの分野にわたって開講し、それぞれのテーマにつき複数の講師により異なる視点からアプローチします。学生は、異なる分野から2科目を選択し、特に関心を深く抱いたテーマについては、さらに教養ゼミBで掘り下げます。
	教養ゼミA	問題関心の設定、資料の探索、収集、その読み込み、発表、討論、分析結果の整理、論文(レポート)作成などの技法を身につけることを目的にします。連続2コマの必修科目とし、クラスは学部・学府の別を越えて編成し、学生相互が切磋琢磨することを期待します。
	語学(英語)	実践的な英語力を修得することを目指します。最低達成水準(TOEFL500)を設定し、習熟度別にクラス編成をして、実効力のあるプログラムを集中的に学習します。
	情報コミュニケーション科目	大学生として最低限身につけてほしい情報コミュニケーション(ICT)スキルの修得を目的とする授業で、実習中心で進めます。初級シス・アド(情報処理の基礎資格)レベルの達成を目指します。
	基礎科学講義A	専門教養のコースで学ぶべき学問の紹介として、5つの分野に分け各分野の特徴的な学問内容や方法のエッセンスを講じます。学生は、このうちから2つを履修し、基本的な学問分野をいわばブラウズ(ざっと目を通す)することにより、コースを選択する材料とします。
	実践科目	教室の外に出て、自分の体を使いながら、他人や自然と触れ合うことなどによって得られる体験を自己の発見の重要な契機の一つとして位置づける科目で、医療福祉施設体験、地域の活動、フィールドワーク、海外協力、キャリア・デザイン、スポーツなど、学生自身が自分のテーマを見つけて実行します。1年から4年次までの間で履修します。
後 期	教養ゼミB	教養ゼミAで身につけた技法を、総合講義Aによって促されたテーマに即して応用します。連続2コマの必修科目とし、技法とテーマが結び付くことで、問題解決の技法に磨きをかけ、学生自身が問題をいっそう深く、広く受け止めることができるようになることを目指します。
	情報コミュニケーション科目	専門段階で必要とされる共通の高度なICTスキルの修得を目的とします。1年次前期に続く応用コースで、専攻分野の如何を問わず、1年次後期から受講可能とします。
	基礎科学講義B	専門学府・コースでの学習に必要なとなる前提科目で、専門教養科目につながる基礎的知識や方法論を学ぶ入門的講座からなります。学府・コース選択のための材料ともなります。
原則として2・3・4年次	総合講義B	現代的課題を専門分野と連動させて扱う異分野融合的科目であり、3年次以降の学生を対象とし、すでに専門教育を通じて得た知見を再度広い視点から見直させることを目指します。自分が学んだ専門教育の知識や方法を他の専門からのアプローチと交錯させることによって、自分の専門領域の幅を広げ、さらに、専門教育と教養教育とが往復運動を起こして、専門性を兼ね備えた教養を自ら高める契機とします。
	基礎科学講義共通広域科目	専門の学問を背景にしなが、全学の学生にとっても有益となる科目であり、2年次以降の履修を原則としますが1年次後期から選択可能とします。学生は自分の専門以外の分野を学ぶことにより、広い学識と見識を身につけることができ、また自分の専門と他の分野とのつながりを見つけることで専門性を充実させることもできます。さらに、副専攻を選ぶ際の足がかりともなります。
	語 学	○英語上級コース 1年次の英語のクラスで身につけたスキルを、実践的にさらに強化する訓練の場とします。各学府に進級し専門教養を学ぶ学生の専門に応じた内容に合わせ、その専門で英語を使う際に必要となる高度なスキルの訓練をします。1年次後期からも選択できます。 ○未 習 外 国 語 英語圏以外の文化との接触・交流も今後ますます増大します。そのため、中国語、韓国語、仏語、独語の科目を開講し、異文化を理解する通路とします。1年次からも選択できます。

## ■ 共通教養《科目名一覧》

総合講義A	①人間と文化	多文化社会と異文化理解、現代社会とジェンダー、芸術と現代、文学の世界、都市の文化アイデンティティ
	②社会と産業	グローバル化と経済、企業家に学ぶ、都市のカバナンズ、暮らしの中の法、組織と情報
	③科学と技術	科学技術の創成、医療と社会、自然災害とリスク・マネジメント、健康とライフサイクル
	④国際関係の諸問題と横浜	横浜学事始、横浜と産業、横浜から世界へ、横浜の行政の現状と将来、都市における自然と市民文化
総合講義B	多文化共生とコミュニケーション、病める社会、アジアの将来、インターネット社会の安全性、市場と政府、企業経営のフロンティア、カオスと複雑系、環境論、金融工学とファイナンス理論、生命科学のフロンティア	
語学(英語)	上級英語科目	Academic English for the Liberal Arts. Academic English for the Natural Sciences. Advanced English for Management Studies. Discussing Japanese Topics. Debate Class, Topic-based Discussion Class. Creative Writing Class
	共通基盤科目	情報科学基礎、テキストマイニング基礎、プログラミング基礎、マルチメディア基礎、情報検索基礎、情報編集基礎
情報コミュニケーション科目 (応用コース科目名)	専門基礎科目	コンピュータ科学、自然科学シミュレーション、情報ネットワーク、データベース設計、デジタル画像表現、経営情報処理、情報システム、データ統計解析
基礎科学講義A	人間を考える、社会を考える、数理を考える、自然を考える、健康を考える	
基礎科学講義B	歴史学入門、社会学入門、地理学入門、心理学入門、文化研究入門、思想研究入門 微分と積分、行列とベクトル、力と運動、電気と磁気、化学結合、エネルギーと平衡、遺伝子の科学、生物と形、自然科学基礎実験、統計と確率、経済学入門、簿記入門、経営学入門、経済思想入門、民法基礎、社会システム入門	
基礎科学講義 共通広域科目	人間の探究	現代人の哲学、心を科学する、文学研究の将来、歴史から今を知る、日本史の方法、世界史の方法、芸術作品を読む、倫理学、英語学、英米文学、地域事情(アジア事情・ヨーロッパ事情・アメリカ事情)
	社会の探究	日本国憲法、現代社会の見方、多文化社会の将来、国際社会論、資源と環境の経済学、技術経営論、ライフサイクルの経済学、ベンチャー企業と会計、特許関係法、知的財産管理、社会調査法入門、空間情報処理(GIS)実習、危機管理論
	自然の探究	有機物の科学、反応の科学、生体物質の科学、生物と進化、地球の内部構造、地球の誕生と地球環境、地球科学実験(地層・気象などの観測実習)、科学史、科学技術行政
	数理の探究	確率論、幾何構造論、集合と位相、代数構造論、量子コンピュータ、自然科学の数学表現(微分方程式の基礎)
	健康の探究	病気を科学する、からだの生理学、からだのしくみ、ケアの科学、スポーツ科学

※教養ゼミA、教養ゼミB、実践科目等、項目名と科目名が同じものについては、省略しました。



## ●7つのコースから複数選択が可能

# 専門教養

- 「国際総合科学部」には3つの学系とその下に7つのコースを設けます。学部を統合した利点を生かし、自然科学や社会科学、人文科学と幅広い教養教育を行います。
- 主専攻（メジャー）、副専攻（マイナー）というコースの取り方で、自然科学から社会科学、人文科学と幅広い教養を修得できる履修方法を取り入れます。
- 学生個人の将来像（キャリアデザイン）を視野に入れて、コースでどのような科目を学習すればよいのか（カリキュラムデザイン）をイメージしやすいように、コース毎に3つの「履修基本モデル」（クラスター）を作成しました。



## ●人間科学コース

### 国際教養学系

育成する人材	現代社会に生きる人間の営みを、根源的に、また家族・地域を含む社会システム総体のなかでとらえ、これからの社会が必要とする「人づくり、人間関係づくり」の能力を備えた人材を育成します。		
主な科目	人間論、現代哲学、現代社会論、心理学、文化人類学、現代日本社会、多文化社会論、地域社会形成論、人間社会論、福祉社会論、家族関係の社会学、高齢社会論、コミュニケーション論、情報社会論、教育心理学、現代教育論、地方自治と市民社会、社会調査法、現代思想、精神分析		
履修基本モデル	<b>自己の発見</b> 人間の本质について深くかつ広く学び、現代の人間像と比較しながらその理念的歴史的な考察を深め、新たな人間社会を築く心構えを身につける学習を行います。	<b>人間社会と個人の存在</b> 他者と自己に対する理解を深め、同時にそれを社会的な視点から捉えることのできる実践家を養成するための学習を行います。	<b>「まちづくり」と市民の役割</b> 社会の成熟化の中で、生活者の視点からコミュニティ、都市、文化、家族、学校、労働等の課題を考察し、新たな市民社会の構築について学習します。
学生の将来像	教育、研究等の分野で活躍できる人材	心理・教育・福祉・サービス分野等で活躍できる人材	NPO、市民活動等で活躍できる人材

## ●国際文化創造コース

### 国際教養学系

育成する人材	現代社会の各地に生起する問題や事象について、グローバルな国際関係の視点と各地域の文化的・歴史的背景を前提にして理解し、視野の広い認識を身に付け、新しい文化創造を担う人材を育成します。		
主な科目	国際社会と政治、国際社会と法、国際社会と経済、言語学、歴史学、表象文化論、国際社会と地域、世界史、国際社会と開発、都市と産業集積、都市文化論、文化開発論、比較文化論、日本文化論、国際社会と人権、地球環境問題、東アジア社会、中国史、現代中国社会、現代韓国・朝鮮社会、東南アジア社会、アメリカ社会、ヨーロッパ社会、ヨーロッパ史、日本近現代史、中国の古典文化		
履修基本モデル	<b>国際問題と地球市民</b> 激動する現代国際社会の諸問題について、歴史的にかつ自らの生活・地域と関連づけて捉え、地球市民としてその諸問題の解決に主体的に関わることのできるよう学習します。	<b>文化の多様性と民族問題</b> 世界の多様な文化について、自文化と比較しつつ理解を深め、それを基盤として例えば民族問題のような国際社会のアクチュアルな問題を理解します。	<b>文化創造と地域社会の活性化</b> 現代社会の文化事象を総合的に理解する能力を身に付け、それを基盤にした創造的な文化活動に向けた学習を行います。
学生の将来像	国際協力関係NPOや地域NPOなどで活躍できる人材	地域社会における共生に向けた橋渡しができる人材	文化の面から地域社会や地域経済を活性化させる展望をもった人材

## ●基盤科学コース

### 理学系

育成する人材	エネルギー、医療、デバイス、情報など現代社会、産業が求める理学系の基礎学問を理解するとともに、領域横断的にナノスケールの科学技術の基礎を理解し、先端科学技術の基盤を担う人材を育成します。		
主な科目	振動と波動、先端科学技術Ⅰ・Ⅱ、ナノ物質創製概説、量子力学、周期表の科学、分子機能科学、ミクロ現象とその集合、先端科学序説、波動としての電子、自然科学ゼミ、企業技術体験、先端物性測定講義Ⅰ・Ⅱ、シミュレーション実験、有機物質科学、無機物質科学、ナノ構造解析、電子物性、電磁気学、統計力学		
履修基本モデル	<b>科学技術と産業創造</b> 自然科学の基本的法則を学習し、その上に物質合成法や高度な測定機器の実習等を通して最先端科学の知識と幅広い技術・手法を身につけます。また、ベンチャー起業など産業創造についても学習します。	<b>ナノ科学技術の追求</b> 最先端の物質科学としてのナノサイエンスの知識をしっかりと自然科学の基本的法則を基礎に修得し、高度な分析機器を用いた実験から分析技術や原理を修得します。それらを基盤とし、最先端のテーマについて研究を行います。	<b>産業基盤科学と人間社会</b> 他コースと連携して、人文・社会科学系の知識を幅広く修得し、自然科学及び科学技術の動向を洞察し、科学技術と人間社会との関連について学習します。（本履修モデルは、並行して複数専攻の履修を奨励します）
学生の将来像	先端科学を起業に結びつけられる技術者等の人材	ナノ科学技術の発展に貢献できる人材	科学技術の内容を良く把握し、産業技術の動向を洞察できる行政官等の人材



## ●環境生命コース

育成する人材	新しい循環型社会が目指す環境と生命の関わりを理解できる人材の育成とポストゲノムにおけるバイオ産業の発展に寄与できる人材を育成します。		
主な科目	環境生命フィールドワーク、バイオインフォマティクス、環境科学、極限環境生物学、分子細胞生物学、先端生命科学、環境生命科学入門、環境分析化学、細胞生物学、生化学、行動生物学、動物発生学、植物発生学、神経生物学、生殖生物学、遺伝学、植物環境応答学		
履修基本モデル	地球生命環境の解明 環境シミュレーションから生命科学フィールドワークを含め、広く実践的なプログラムに基づき、生物の多様性、情報、環境安全等実践的な知識を学習します。	生命科学の本質と人間 生物が生きる環境の重要性や生物と環境との相互関係を学びます。生命科学及び生命科学と環境の関わりと理論技法を詳しく学習します。	バイオ科学と新産業の創造 他コースと連携して、広い視野からバイオテクノロジー関連の知識を深め、あわせて環境・情報など周辺分野を学びます。(本履修モデルは、並行して複数専攻の履修を奨励します)
学生の将来像	生物分野と環境・社会を結びつけ産業界、地方自治体等で活躍できる人材	環境生命科学の研究や開発を推進できる人材	食品・医薬品分野をはじめ産業界で活躍できる人材

## ●政策経営コース

育成する人材	大都市経営における諸問題等を多角的に教育し、公的及び私的分野における政策の企画、立案、実行できる人材を育成します。		
主な科目	経済政策、会計学原論、経営管理総論、公共選択論(政治学)、株式会社簿記経営戦略論、情報の経済学、国際会計論、財務管理論、マクロ経済学、民法(債権)、情報システム論、ミクロ経済学、会社法、マーケティング論、社会科学の方法、行政学、行政法、意思決定論、原価計算論、財政学、租税法、ベンチャービジネス論、地理情報システム論、民法(物権)、産業経済論、国際経済学、中小企業経営論、統計学(経済統計)		
履修基本モデル	市民社会のガバナンス 民間部門と公共部門の関係を経済学、政治学、法学等を用いて整理し、共通言語を持って両部門の対話を促進し、費用対効果を的確に押さえた政策検討を学習します。	産業経済と地域社会の活性化 地域産業の振興や再生、ベンチャー企業や新しい事業の創生に関わる経済政策、経営問題を包括的に分析し、政策・戦略の立案と実行を支援できる専門知識を醸成します。	都市環境整備と大都市経営 現代社会で顕在化している環境・インフラ・経済などの多様な都市問題に対し、主に経済学・会計学・法学等を総合的・複合的に学び、多様な視点から効率的かつ的確な解決策を導き出せる知識を習得します。
学生の将来像	民間部門と公共部門で政策検討できる人材	都市の産業、企業、雇用のシステム再構築をサポートできる人材	大都市問題に関して的確な解決策を見出せる人材

## ●国際経営コース

育成する人材	グローバルな視点から企業・金融及び産業の諸課題をとらえ、統一かつ多面的に分析し、政策提言や国際社会で活躍できる人材を育成します。		
主な科目	経済政策、会計学原論、経営管理総論、株式会社簿記、経営戦略論、情報の経済学、国際会計論、財務管理論、マクロ経済学、民法(債権)、情報システム論、ミクロ経済学、会社法、マーケティング論、社会科学の方法、行政学、金融論、意思決定論、国際金融論、原価計算論、人事労務管理論、租税法、ベンチャービジネス論、民法(物権)、マネジメント思想の発展、管理会計論、国際ビジネスシステム論、国際経済学、手形小切手法、中小企業経営論、統計学(経済統計)		
履修基本モデル	企業の国際化と経営戦略 基礎理論を着実に修得したうえで、グローバルな視点から先進ケースなどを多用し、その実践的意味や活用ツールを紹介し、常に一段高いレベルから経営現象を分析し、解決策を考案できるように学習します。	企業の社会的責任とアカウンタビリティ グローバルな視点とローカルな視点をバランスよく備えた人材の育成を目指し、会計基準と企業法務体系など様々な技術的スキルの習得に加え、コミュニケーション能力を高めます。	経済のグローバル化と金融システム グローバルな視点から経済、金融、金融機関の諸課題を地域の特性を考慮しながら理解し、それらを理論と実証の両面から学びます。また、中小企業金融、自治体の資金調達など、具体的な経済・金融システムを学習します。
学生の将来像	経営現象を的確に捉え、解決策を考案できる戦略構想力を持った人材	会計・企業法務などの技術的スキルを備え、戦略的・社会的視点を持った人材	現実の経済、金融システムを担える人材

## ●ヨコハマ起業戦略コース

育成する人材	3学府の融合領域として、横浜市産業界と連携し、中小企業等の起業・再生、またNPO等の市民社会システムの再構築を担うに相応しい起業マインドを持つ人材を育成します。		
主な科目	起業のマネジメント、起業家論、都市型産業論、大都市論、ヨコハマのアーバン・デザイン、市民によるまちづくり、ベンチャービジネス論、ベンチャーファインネス論、大都市における分権化、都市開発論、多文化共生社会論、豊かさ論、都市生活の質、労働生活の質、バイオテクノロジー(先端科学技術1)、ナノテクノロジー(先端科学技術2)、IT(先端科学技術3)、先端医療技術(先端科学技術4)、環境技術(先端科学技術5)、ニュー・ビジネス論、大学発ベンチャー、ヨコハマの産業、ヨコハマの産業政策、異業種交流論、産業集積論、中小企業の経営、中小企業の革新と活性化、商店街論、承継と後継者問題、地域金融論、企業再生論、中小企業の研究開発、中小企業のIT化、産業と社会、ヨコハマ・ブランド、ヨコハマの観光産業、市民活動と社会参加、ボランティア論、コラボレーション論、民話論、NPO論、コミュニティ・ビジネス、生涯学習論、国際人権とヨコハマ、福祉のまちづくり、アクティブ・エイジング社会、環境再生のまちづくり、生命のまちづくり、コンベンションのまちづくり、21世紀のミナト・ヨコハマ、E-政府、まちのマーケティング、ヨコハマにおける男女共同参画、ヨコハマの交通体系		
履修基本モデル	ヨコハマにおける「起業支援」と「まちづくり」 起業マインドを持ち、都市経済の活性化・協働によるまちづくりなどを複合的に理解するため、先端科学の学習も含め、起業に対する考え方や態度を学びまちづくりや市民生活の充実を考えます。	ヨコハマ産業の活性化と異業種交流 横浜の産業上の長所短所ポテンシャルを学習し、先端科学も含めた学習とともに、異業種交流や産官学交流の方法を体得するなど、既存の中小企業の活力と革新を生み出す考え方を学習します。	ヨコハマの市民力と社会システムの再構築 市民力とは何か、どのようにすれば育成できるかなど、自然科学等の学習を含め、社会システムの再構築につながるヨコハマのまちづくりの目標と方法を学習します。
学生の将来像	起業志向やまちづくりの考えを大切にできる人材	横浜産業の活性化、既存の中小企業の活力と革新を考えることができる人材	民の力を活用した新たな社会システムの創造や改革に貢献できる人材

(注) 各コース概要の主な科目については、平成16年3月に公表された「国際総合科学部(仮称)コース・カリキュラム案等報告書」に基づいたものであり、今後、一部変更となる場合があります。



# 平成17年度入試について

## 一般選抜

- 国際総合科学部は、第1次試験として「大学入試センター試験」、第2次試験として「論文試験」を実施します。
- 前期日程試験のみの実施とします(後期日程試験は実施しません)。

募集区分	1次試験<大学入試センター試験>	2次試験
文系 (国際教養学系・ 経営科学系)	<b>3教科3科目</b> 国語、数学(I・A、II・Bから選択)、社会(地歴、公民から1科目選択)の3教科から 2教科2科目選択、英語(必須)	論文
理系 (理学系)	<b>3教科5科目</b> 数学(I・A、II・B)、理科(物理、化学、生物から2科目選択)、英語	論文
文系理系共通	<b>4教科5科目</b> 数学(I・A、II・B)、理科(物理、化学、生物から1科目選択)、 社会(地歴、公民から1科目選択)、英語	論文

(注) 国際総合科学部では、入試における募集区分については、2年次の各コースへの進級(選択制)を想定しています。

なお、文系理系共通区分は、どのコースにも進級することができます。

ただし、入学後も変更を可能とする柔軟な教育システムとしているため、1年次の履修でコースが指定する一定の科目と成績により、入学時の制約(募集区分)を受けずに自分の選択するコースに進級することができます。

## 特別選抜

- 本学への入学実績等がある高校を対象とした「指定校推薦制度」を導入します。なお、被推薦資格は「横浜市内在住者」とします。
- 大学として来て欲しい学生や本学で学びたいという意欲的な学生を対象とした「AO(アドミッション・オフィス)入試」を実施します。
- その他「海外帰国生入試」、「外国人留学生入試」を実施します。

※入試の詳細(日程・定員・教科・科目・配点等)については7月に発行予定の「募集要項(概要)」を必ずご覧ください。



横浜市立大学

YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

平成16年6月発行

編集・発行/横浜市立大学入試課

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2

Tel.045-787-2055

Fax.045-787-2057

インターネット・ホームページアドレス

<http://www.yokohama-cu.ac.jp/>